

## 1. スタートアップという表現について

スタートアップのようなJカーブの冷え込みが激しい。

キーワードとして東京の状況とはフィットしてない。

資金調達も厳しいし、スタートアップとして上場したところの株価も芳しくない。

事業実態を伴っていない上場と言えなかったもの。上場ゴールって言われるようなものが見られること。

これをどのように捉えていくのか？

## 2. 尖った施策について

個別の事業者向けに支援・新しい産業育成の支援

⇒「兵庫県独自」という表現は事業者として嬉しい。

さらに支援先には「尖ったってところ」まで知事に言ってもらえたらいいなあと感じる。

尖るってというのは、みんなの合意が取れない。反対さえされるようなもの。

全体合意ではなく趣味とか偏重って言われる可能性があるものです。

これを実現させるためにこの尖ったところは民間に頼る。

そのための自治体としてのバックアップをしていただければと思う。

## 連携のイメージ

小さい強力なファンを集めていろんなアーティストと一緒にオムニバスを作る

兵庫県は大きな音楽会社で、民間企業はアーティスト

ニッチトップ企業をたくさん集めてそれぞれを選別して個別支援。

⇒特に外国人留学生の起業支援（スタートアップのようなことよりもベンチャー支援）

### 3. 県で行う事業のあり方について

- ・ 具体的な事例としてどのようなものが助成事業として選ばれているのか

⇒実際の現場を今後の事業者が想像できるようなフォローアップをしたい。

取って終わり、やって終わりにならないように次に生かせる助成事業・補助事業にしたい。

- ・ 特に文書による通知での助成や補助の情報提供は分かりにくく、さらに書類が煩雑

⇒中小企業には重荷でしかない。そもそも民間企業は活用できてない。

逆に言うと、民間企業を活用しての県政を考える上では連携するためにコミュニケーションのあり方を考え直してほしい。